

## 主張

新型コロナウイルス感染症拡大の下、疲弊した医療現場の立て直しは喫緊の課題である。しかし、

昨年末に発表された診療報酬改定率は、本

体で+0・43%だが、

全体での改定率は-

0・94%となった。

本体+0・43%は新

型コロナ感染症到来

前の前回改定率+

0・55%よりも低くなっ

ている。その内容は、看

護の処遇改善に+0・

20%、不妊治療の保険適

児の感染防止対策に係る加算措置の期限到来の-0・10%を差し引くと、医療全体に活用できる部分は+0・23%となる。補助金を含めても医療機関全体が新型コロナウイルス禍以

題として位置づけているにもかかわらず、感染防止対策に係る外来特例廃止、PCR検査などの評価の引き下げが行われている。小児の感染予防対策に係る特例も新型コ

める医師・歯科医師要請署名」を推進し、「2022年度診療報酬改定に向けた保団連要求」に基づき要請行動を行ってきた。その結果、財務省が強く求めていた「診療

ター」による市場実勢価格の公表、省庁・議員要請、マスコミ発信を重ねてきた結果、不十分ではあるが私たちの要望が価格改定に反映された。

# マイナス改定は5回連続 今こそ反転攻勢に出る運動を

前の経営水準の戻らない中、このような改定率では、疲弊した医療現場の抜本的改善には程遠い。

コロナ感染症が収束しない中、3月に廃止予定である。

報酬本体の躊躇なきマイナス改定」を押しとどめることができた。

加でできる運動を展開し、次回改定でぜひ大幅引き上げを実現したい。

また、今次診療報酬改定の基本方針では、新型コロナウイルス感染症対応を重点課

目は、今回の診療報酬改定に向けて「疲弊した医療提供体制を立て直す診療報酬改定を求

また歯科の「金パラ逆ザヤ」問題でも、2年間にわたって会員署名の実施や「逆ザヤシミュレ

の積極的な協会活動へのご参加をよろしくお願ひします。

1月末に開催された保団連大会の方針を受けて、健保連や財政審の先手を取り、対抗できる政策提言や情報発信を強化し、会員署名など会員の皆さんが参加